



## 数え方・単位の調べ方

2008.3 山梨県立図書館

特に日本語においては、ものの数え方（助数詞）や単位はたくさんの種類があります。これらを正しく使い分けてみませんか？



### 数え方について調べる

#### 1. 専門の辞典類で調べる

『**数え方の辞典**』（飯田朝子著 小学館 2004）

第1章「ものの数え方」は約4,600語の数え方が載っています。1つの名詞に対して複数の数え方がある場合もすべて載せ、数え方のポイントが解説されています。第2章「助数詞・単位一覧」には約600語について、それらが持つ意味および用法が解説されています。

『**ことば絵事典**』第2巻（偕成社 2006）

イラストを豊富に使って、子どもにも分かり易くなっています。単位についても掲載されています。

『**もののかぞえ方絵事典**』（PHP研究所 2001）

数え方の基本的な決まり事や、おもしろい数の歴史が豊富なイラストとともに掲載されています。巻末に五十音順索引があります。

『**数え方と単位の本**』全6巻（学研 2006）

ものの数え方と単位をイラストで紹介するシリーズです。第1巻「暮らしと生活」、第2巻「遊びと文化」、第3巻「生き物」、第4巻「自然と植物」、第5巻「モノの単位」、第6巻「数を使ったことば」となっています。巻末に早見表が載っています。

## 2 . 言葉（名詞）から数え方を調べる

『日本語大辞典』講談社カラー版（講談社 1995）  
語句の説明の後に数え方が載っています。

『日本国語大辞典』第2版 全13巻+別巻（小学館 2000-2002）  
日本最大の国語辞典で、言葉の語源や由来についても扱われています。精選版（全3巻）もあります。

## 3 . 助数詞に関する本で調べる

『日本語助数詞の歴史的研究』（三保忠夫著 風間書房 2000）  
歴史的見地から助数詞について幅広く考察しています。

『数え方でみがく日本語』（飯田朝子著 筑摩書房 2005）  
数え方から日本語を見直す本です。助数詞と単位の見分け方についても載っています。

### インターネット情報源

「三省堂Web Dictionary - ことば百科 - 単位を表すことば（助数詞）」（三省堂）  
<http://www.sanseido.net/main/words/hyakka/tani/index.aspx>  
三省堂のWeb辞書サイト「ことばの世界」の「ことば百科」に単位を表す言葉があり、分野別に一覧で紹介されています。

「みんなの知識【ちょっと便利帳】-ものの数え方 助数詞」（みんなの知識委員会）  
<http://www.benricho.org/kazu/a.html>  
調べたい単語または50音で探すことができます。

## 英語では...

『英語の「ものの数え方」辞典』(瀬谷廣一著 講談社 2006)

英語の名詞を数える際に用いられるグループターム (group term) 日本語でいえば「助数詞」にあたる集合名詞をすべて網羅しています。巻末に日本語の「ものの数え方」一覧が掲載されています。

『研究社英語の数量表現辞典』(研究社 2007)

トピック別編と和英編の2部構成になっています。トピック別編では64のトピックについて解説しています。和英編では、和英辞典の形式で約1,200の日本語見出しを収録しています。



## 単位について調べる

### 1. 単位についての基本を調べる

#### step1 基本を知る

『単位にくわしくなる絵事典』(PHP研究所 2006)

身の回りの単位から専門的な単位まで、様々な単位を紹介する絵事典です。単位の歴史や日本の古い単位がわかる「単位の小事典」が付いています。

『身近な単位がわかる絵事典』(PHP研究所 2002)

重さ、長さの単位から宇宙をはかる単位までイラストでわかりやすく解説しています。

『単位171の新知识』(星田直彦著 講談社 2005)

「単位のしくみ」全171項目を取り上げ、なりたちにつわるエピソードをからめて、その単位の意味をわかりやすく解説しています。

『単位と比』(芹沢正三著 さ・え・ら書房 2002)

科学や技術の歴史とともに、普段の生活と深く結びついている単位について学ぶことができます。単位の意味や理解を深めるための計算や応用問題が付いています。

## 単位のはなし...ビデオがあります

『「1」を決めるために?!』(科学技術庁 2000)

単位の歴史、単位の成り立ちをビデオで学ぶことができます。各国でどのように単位を使っていたか、どのようにして世界共通の単位が決められたかがわかりやすく解説されています。

### step2 辞典類で単位を調べる

『丸善単位の辞典』(丸善 2002)

単位の名称を五十音順に配列し、解説しています。単位に似たものや単位に準ずるものも広く採録してあります。記号索引、欧文索引があり、単位に関する付録も掲載しています。

[単位] 度量衡・時間・通貨などの日常一般に用いられる単位、物理学・化学・天文学・生物学・工学・気象などに用いられる専門的な科学・技術上の単位、商取引に用いられる単位、全世界的に古代から現在までに文献上に現れた単位。  
[単位に準ずるもの] 事物の数え方、偏差値などの「xx値」、失業率などの「yy値」、知能指数などの「zz指数」等数値で表すもの。

『度量衡の事典』(阿部猛著 同成社 2006)

度(長さ・広さ)・量(体積)・衡(重さ)に関する用語について解説しています。分類別索引編と用語編に分かれています。

『量の表現辞典』(高田誠二編著 朝倉書店 1994)

現代理工学の諸分野での量的な表現を手広く集め、対象それぞれの特徴を明らかにし、またそれらの表現を国際単位系(SI)に向けて誘導することを狙いとした辞典です。

## 2 . S I 単位について調べる

### と？ S I 単位とは？ と

S I とは「国際単位系」を意味するフランス語の略称です。メートル法に代わり、分野によらない統一的で合理的な単位系として、1960年の国際度量衡総会で決定されました。S I は7個の基本単位と、基本単位に準じた使い方をする2個の補助単位、およびそれらから原則として積または商の形式で組み立てられる組立単位で構成されるS I 単位と、ナノ・センチ・メガ・テラなどの10の整数乗倍の大きさの単位を表すS I 接頭語から構成されています。

参考資料：『早わかり S I 単位辞典』（中井多喜雄著 技報堂出版 2003）

#### 『早わかり S I 単位辞典』（中井多喜雄著 技報堂出版 2003）

国際単位系（S I 単位）の解説書です。各学問分野別に必要なS I 単位、当分の間使用が認められている非S I 単位、使用が公認される非S I 単位（S I 併用単位）についても掲載しています。非S I 単位についてはS I 単位への換算率も記されています。和文索引、英文索引、単位記号索引があります。

#### 『S I 単位ポケットブック』第2版（日刊工業新聞社 2003）

国際単位系（S I 単位）を学問分野別に解説しています。併せて当分の間使用が認められているS I 併用単位、非S I 単位も解説したS I 単位便利帳です。辞書としても使うことができます。

#### 『国際単位系（S I）』国際文書第7版（日本規格協会 1999）

国際単位系（S I）に関して、国際度量衡総会及び同委員会が行った決議、勧告、声明などを中心に、国際単位系を理解し、利用するために必要な情報を集めた基礎資料の日本語版です。

### インターネット情報源

「国際単位系（S I）」（独立行政法人産業技術総合研究所 計量標準総合センター）

<http://www.nmij.jp/index.html>

「計量標準の知識」ページ内に「国際単位系（S I）」があります。国際単位系の沿革やあらましの他、国際度量衡局が2006年に改訂した「S I 文書」第8版へもリンクしています。日本語訳もPDFファイルで見ることができます。

### 3. 単位に関する事項を調べる

#### step1 単位の歴史

『**図解単位の歴史辞典**』(小泉袈裟勝編著 柏書房 1989)

長さ・面積・体積・重さ・貨幣・干支・天文・暦法・易占・方位・角度・時間・年齢・割合・租税・測量・数詞・数量単位・計算・音律・雅楽・文芸・行政・制度・法令・建築・軍事・兵制・人物・文献など、歴史に現れた「単位」と「計量」に関する用語・事項を広範囲に網羅した辞典です。図版・図解が豊富で、日本だけでなく中国・朝鮮半島の各時代の単位の大きさや変化についても記述があります。

『**単位の起源事典**』(小泉袈裟勝著 東京書籍 1982)

時間、角度、度量衡の主な単位について、その起源と遠隔を西洋と東洋に大別し、記述しています。本文索引の他に各国固有単位、旧制単位および古代単位表と国際単位系一覧表も掲載されています。

「もの与人間の文化史」シリーズから...単位に関わる図書



『**ものさし**』(小泉袈裟勝著 法政大学出版局 1977)

「尺度」の変遷を実証的にたどりながら、数千年にわたって人間の生活に関わってきたものさしの多彩な歩みを紹介しています。

『**秤**』(小泉袈裟勝著 法政大学出版局 1982)

貨幣や貴金属と密接に結びついて特異な発達をとげた秤の歴史を、分銅・天秤などの個々の物を通して跡づけ、庶民生活において果たしたその役割を探ります。

#### step2 単位のおはなし

『**単位のおはなし**』改訂版(小泉袈裟勝・山本弘著 日本規格協会 2002)

単位は永久不変であることが望ましいにもかかわらず、科学と技術の進歩、産業の発展に伴って再三改訂されています。単位の意味や生い立ちなどの疑問に答える分かりやすい解説書です。

『**単位のおはなし**』続 改訂版(小泉袈裟勝・山本弘著 日本規格協会 2002)

単位のS I(国際単位系)化は、国際的にも国内的にも着実に進められています。新しい規格の制定、計量法改正による法定計量単位のS I優先使用などを踏まえて解説しています。

『単位の世界をさぐる』(矢野宏著 講談社 1997)

測定にはその基準となる単位が必要ですが、単位や、それをある具体的な量で示したものである「標準」は、約束事であり、見かけ上の整合性をとったものです。単位や標準はどう定められ、何に裏付けられているのか、単位や標準の設定から、その維持・管理、普及や更新についても考察しています。

『やさしい計量単位の話』(松山裕著 省エネルギーセンター 1996)

計量法に規定された計量単位について、現在の単位になるまでの歴史的な経過、単位のもつ物理的な意味、測定法や標準などについて解説し、単位の立体的な理解をめざした本です。

『単位でおしゃべり』(玉川洋次著 風涛社 1993)

単位の話は数値の話でもあります。その数値が示す意味を正確にとらえ、どのように生活に関わっているのかを考えるための本です。対話形式で書かれています。

『そこが知りたい単位の知識』(山川正光著 日刊工業新聞社 1993)

古今東西で使われてきた計測単位を、系統的に並べて紹介しています。また、国際単位系(SI)の概要も解説しています。

**step 3** 物理学的単位

『岩波講座物理の世界 ものを見るとらえる』9 (佐藤文隆著 岩波書店 2005)

SI単位系を中心に単位系の構成を解説。物理現象と基本単位の定義法の歴史から、より高い精度をめざす新しい定義の試みまでを紹介しています。

『動力学演習』(佐々木和美著 パワー社 1996)

加速度、抵抗力、遠心力など動力学に限定し、基本公式によってその数値を求める方法を説明しています。巻末にSI単位への換算表があります。